

若衆歌舞伎の面影を今にしのんで

# 好色氏神詣

監修・脚色

中村万作

演出

茂山千之丞

出演

志賀山扇右

茂山千五郎家一門

長唄・杵屋勝進次郎連中

鳴物・藤舎秀啓連中

2004年11月23日 火祝

京都芸術劇場「春秋座」

開場 15:30 開演 16:00

料 金

S席 一般 6,000円 学生&25歳以下 4,500円  
A席 一般 5,000円 学生&25歳以下 3,500円

※未就学児童の入場はお断りします ※当日各500円増  
※25歳以下の方は学生証又は年齢のわかる物をご提示下さい

チケット取扱

京都芸術劇場 075-791-8240 (平日 10:00~17:00)  
チケットびあ 0570-02-9966 Pコード(355-924)  
0570-02-9999

主 催

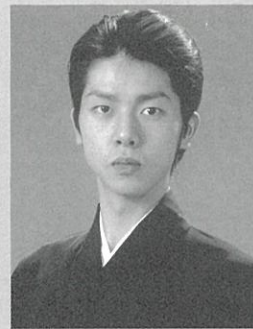
京都造形芸術大学／志賀山一流保存会

お問い合わせ

京都芸術劇場 075-791-9437







監修・脚色  
中村万作

演出  
茂山千之丞

出演  
志賀山扇右

茂山千五郎

茂山七五三

茂山千三郎

茂山正邦

茂山宗彦

茂山茂

茂山逸平

茂山童司

茂山良暢

京都造形芸術大学生

# 好色氏神詣

演目 舞踊「松の緑」 立方 志賀山扇右  
若衆歌舞伎「好色氏神詣」

## あらすじ

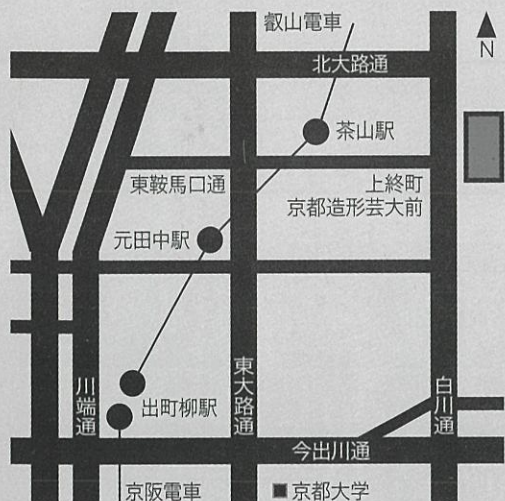
「好色氏神詣」は今から三百年以上前、庶民が生命力にあふれていた頃に京都や大阪で上演され人気となった歌舞伎狂言です。「氏神詣」と称してお花見に出かけたお殿さま。引き連れた大勢の家来の中には、二人の美少年お小姓がいます。風に舞う桜の花びらに誘われたのか、移り気なお殿様の心もあっちにフラフラこっちにフラフラ・・・お殿様の浮気性に嫉妬するお小姓と、呆れ顔の家来たち。さてさて、楽しいはずのお花見の結末や如何に。

## 好色氏神詣の事

慶長年間、出雲大社の巫女の阿国が、京都四条河原の勧進興行で見せた念仏踊が、歌舞伎の始まりと云われています。そして、それが世に女歌舞伎と呼ばれ流行をきわめますが、風紀上の理由で停止となり、今度は美少年を集めて興行したのが若衆歌舞伎です。当時は衆道（男色）の風習は巷に充ち、若衆歌舞伎の若衆役の立者の給料は、若女形のそれを上廻ったと言はれる程でした。この若衆歌舞伎も女歌舞伎と同様の理由で興行停止にあい、野郎歌舞伎に変わりそれが現在の歌舞伎につながったのは周知のことです。そして近世ではその昔の衆道狂言の若衆役を女役に置きかへて演じていました。例へば歌舞伎十八番の毛抜きで主役の松永弾正に口説かれる女小姓（腰元）数江の役は、本来は男の小姓数馬であったのです。この相手役の男女の違役弾正の役のスケールを変えてしまうから不思議です。

数江を相手にしている弾正が単なる好色男にしか見へないのに、馬術にことよせて数馬を口説いている弾正が、英雄豪傑に見へて来るのは僻目でしょうか。閑話休題。その昔、庶民が生命力に溢れていた頃の初期歌舞伎の残された数少ない脚本の一つに、好色氏神詣があります。しかもこの劇中の幕合舞踊の馬場先踊が当流には伝承されているのです。この二つを基としての初期歌舞伎の復元が私の長い間の夢でした。この度、茂山千之丞先生に演出をして頂く事が叶い、出演に狂言大藏流茂山千五郎一家一門の皆様と私の弟子、志賀山扇右、そして京都造形芸術大学の学生の皆様にお力添えを頂きながら、三百年も昔に実際に上演されたこの京都の地で上演ができる事はこの上ない幸せでございます。

志賀山一流十世家元 中村万作



京都造形芸術大学  
京都芸術劇場「春秋座」

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

JR「京都」駅/京阪「三条」駅/阪急「河原町」駅から(京都駅からは約50分)

京都市バス5番「岩倉」行き乗車「上終町・京都造形芸大前」下車

市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から(約15分)

京都市204循環に乗車「上終町・京都造形芸大前」下車

京阪電鉄「出町柳」駅から

叡山電車に乗り換え「茶山」駅下車徒歩10分 / タクシーで10分

本学には駐車場がありません。車・バイクでのご来場はご遠慮ください。